

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00452

研究課題名(和文) ロシア・ネオ・アヴァンギャルド文学の美的原理とタイポロジー

研究課題名(英文) Aesthetic principles and typology of Russian neo-avant-garde literature

研究代表者

Grecko Valerij (Grecko, Valerij)

東京大学・教養学部・特任准教授

研究者番号：50437456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：ロシアの歴史的アヴァンギャルドとネオ・アヴァンギャルドの作品を比較した結果、以下のことが明らかになった。ネオ・アヴァンギャルドは歴史的アヴァンギャルドから美的原理としてミニマリズムとプリミティヴィズムを受け継いだ。ネオ・アヴァンギャルドの作品では歴史的アヴァンギャルドに比べて、多言語性の機能が拡充されている。ネオ・アヴァンギャルドの創作活動において、意味論的な領域に代わって語用論的な領域の重要性が増している。パフォーマンスはソ連後期の政治的抑圧や検閲に対抗する方策だったと考えられる。ネオ・アヴァンギャルドの作家はハイパーオーサーシップの戦略を用いて、「作者」の概念を相対化している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ネオ・アヴァンギャルドの具体的な文学作品を分析すると同時に、その美的原理やタイポロジー、歴史的アヴァンギャルドからネオ・アヴァンギャルドに至る展開について理論的に考察し、その成果を国際学会や学術誌で発表することによって、従来のアヴァンギャルド研究に新しい観点を与えた。また、分析対象がリアノゾヴォ・グループやモスクワ・コンセプチュアリズムといったソ連後期の芸術活動だったため、政治やイデオロギーの問題にも踏み込むこととなり、独裁体制の中で芸術がどのようにして自由を確保し、社会を変えていく力を発揮しようとしたか／しているのかという点も考えることになった。

研究成果の概要(英文)：Comparing the historical avant-garde and the neo-avant-garde, we can see that (1) Neo-avant-garde inherited minimalism and primitivism as aesthetic principles from the historical avant-garde. (2) The function of multilingualism has been expanded in the works of the neo-avant-garde compared to that of the historical avant-garde. (3) In the creative activities of the neo-avant-garde, the importance of the pragmatic domain is increasing instead of the semantic domain. Performance is seen as a strategy to confront political repression and censorship at the end of the Soviet period. (4) Neo-avant-garde writers employed the strategy of hyper-authorship to relativize the notion of "authorship".

研究分野：ロシア文学

キーワード：アヴァンギャルド ロシア芸術 ロシア現代詩 コンセプチュアリズム リアノゾヴォ・グループ オーサーシップ ディミトリー・プリーゴフ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

20世紀初頭の芸術に世界規模で影響を与えたロシア・アヴァンギャルド芸術運動は、ロシア革命後ソ連当局によって暴力的に活動を阻止され、その後はごく小規模に非公式な形でしか存在しなかった。ソ連崩壊後、政治的抑圧から解放されて、ロシア・アヴァンギャルドの後継を自認するネオ・アヴァンギャルド芸術運動が急速に発展して、非常に興味深い活動を展開している。

従来のロシア・アヴァンギャルド研究の対象は、その運動が最も盛んだった1910年代から1920年代の時期に集中している。この時期に関してはすでに数多くの研究成果が発表されており、包括的なものとしてはA. Hansen-Löve (1978)、桑野隆 (1996)、A. Krusanov (2010)の研究書を挙げることができる。それとは対照的に、ソ連後期およびポスト・ソ連時代のアヴァンギャルド芸術運動の展開に関する研究はまだ十分とは言えない。近年になってようやく、国際的なアヴァンギャルド研究がロシアのネオ・アヴァンギャルドに注目するようになった。ロシア文学研究の主要な学術誌のひとつである *Russian Literature* (Amsterdam) が2005年にネオ・アヴァンギャルドに関する特集を組んで以来、徐々に関心が高まって、たとえば2013年にモスクワ科学アカデミーでネオ・アヴァンギャルドを含む現代ロシア文学に関する国際会議が開かれ、2017年には『アヴァンギャルドの後に生まれたアヴァンギャルド』というタイトルで論文集が出版された(ベオグラード大学出版局)。しかし、これらの研究はもっぱらネオ・アヴァンギャルドの個々の活動を記述するにとどまっており、全体を概観する理論的な考察やタイポロジー的観点に欠けている。

2. 研究の目的

本来、アヴァンギャルドは既存のものを否定し、すべてを刷新する芸術運動であったはずだが、ロシアのネオ・アヴァンギャルドは歴史的アヴァンギャルドの遺産を部分的に受け継がざるを得ないというパラドックス状況にある。その特異な状況を踏まえた上で、本研究では以下の3つの問いを設定した。

(1) 20世紀初頭のロシア・アヴァンギャルド(=歴史的アヴァンギャルド)の一般的な美的原理と実践のうち、どのようなものが生産的であると証明されて、どのような仲介者を通して現代ロシアのネオ・アヴァンギャルドに受け継がれたのか。

(2) ネオ・アヴァンギャルドが新たに生み出したものは何か。ネオ・アヴァンギャルドにしかない特徴とは何か。

(3) ネオ・アヴァンギャルドの多様な活動をメタ・レベルで類型化することは可能か。これらの問いに答えることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

ネオ・アヴァンギャルドの活動領域は、文学、舞台芸術、映画、絵画、音楽など、芸術の広い分野にまたがっているため、効果的に研究を遂行するには焦点を絞る必要がある。本研究では対象を文学、特に詩というジャンルに限定して、歴史的アヴァンギャルドの作品とネオ・アヴァンギャルドの作品を比較した。

本研究は次のような手順で行われた。

(1) 歴史的アヴァンギャルドのどの詩的モデルが、どのような仲介者を通じてネオ・アヴァンギャルドに受け継がれ、どのモデルが否定されたかを明らかにすることを試みた。具体的には、歴史的アヴァンギャルドの詩作品において典型的に見られる言語実験のうち、どのような形式のものがネオ・アヴァンギャルドに受け継がれたかを明らかにした。

(2) ネオ・アヴァンギャルドが歴史的アヴァンギャルドには見られない新しい形式として、どのようなものを生み出したかについて考察した。その際、現代詩に特徴的な視覚的要素とマルチメディア的側面(たとえば映像を用いた朗読パフォーマンス)、多言語性(ひとつの作品で複数の言語を使用する)に注目した。

(3) 以上の方法によって明らかになったネオ・アヴァンギャルドの美的原理に基づき、ネオ・アヴァンギャルドの芸術活動の類型化を試みた。

4. 研究成果

(1) 歴史的アヴァンギャルドとしてアレクセイ・クルチョーヌィフ、ネオ・アヴァンギャルドとして1960年代から70年代にかけて活発に活動した非公式芸術家集団リアノゾヴォ・グループ(特にフセヴォロド・ニクラソフとヤン・サトゥノフスキー)に注目し、それぞれの文学作品(主に詩)を比較・分析した結果、ネオ・アヴァンギャルドは歴史的アヴァンギャルドから美的原理としてミニマリズムとプリミティヴィズムを受け継いでいることが明らかになった。ただし、以下のような相違がある。

歴史的アヴァンギャルドにおけるミニマリズムは限定的なものだったが、ネオ・アヴァンギャルドではそれが主流となり、たとえばニクラソフの作品はすべてミニマリズムの手法によ

って創作されている。

歴史的アヴァンギャルドのプリミティヴィズムは伝統的な芸術の在り方を否定し、芸術家ではない素人（子どもなど）の創作こそが本物の芸術であるとして、素人のやり方を模倣した。それに対してネオ・アヴァンギャルドのプリミティヴィズムは、いかにも歴史的アヴァンギャルドが追究したプリミティヴィズムのように見せかけながらそれをパロディ化し、読者の期待をわざと裏切って、歴史的アヴァンギャルドのプリミティヴィズムにおける芸術理解に疑問を呈している。

(2) マルチメディアの使用(モスクワ・コンセプチュアリズムとディミトリー・プリーゴフ)と多言語主義(セルゲイ・ビリュコフ、エフゲニー・ステパーノフ、アレクセイ・パルシコフ)に注目し、それぞれの創作理論や文学作品、パフォーマンスを比較・分析した結果、ネオ・アヴァンギャルドの芸術家は歴史的アヴァンギャルドの芸術家に比べて、パロディや読者を意図的に誤解へと導くような手法を取ることが多く、それはインターネットの匿名性によって、芸術家が正真のアイデンティティを隠して複数のアイデンティティを持つことが可能になる(他のアイデンティティを演技することができる)からだとということが明らかになった。

(3) ネオ・アヴァンギャルドの詩に見られる多言語性は、次のように類型化できる。

状況的多言語性：詩人が母語環境にはない(たとえば外国を旅行している)ことを示す。外国語を使用することによって、外国に滞在していることの信憑性が増す。ただし、この場合、外国語は単語のレベルで断片的に挿入されることが多い。

間テクスト的多言語性：外国語で書かれたテキストの引用であることを示す。引用されるテキストの多くはマニフェスト的性格を持ち、読者に作品のコンセプトを理解する手がかりを提供する。

創造的・遊戯的多言語性：外国語の要素を使った言葉遊びによって、母語の可能性を広げる。これはネオ・アヴァンギャルドが歴史的アヴァンギャルドから引き継いだ手法で、現代文学において非常に多く使われている。

アイデンティティを支える多言語性：外国で暮らす詩人に見られる特徴で、多言語性が自己の複雑なアイデンティティを表現する手段となる。

歴史的アヴァンギャルドにおいては 状況的多言語性と 創造的・遊戯的多言語性が典型的に見られるため、 間テクスト的多言語性と アイデンティティを支える多言語性はネオ・アヴァンギャルドに特徴的なものであると言える。

(4) モリスの記号論的三分類と、それを芸術に応用したロートマンの理論に基づき、芸術実践という記号論的現象を、意味論的な領域(言葉の意味が重要)、統語論的な領域(語順やテキストの配置が重要)、語用論的な領域(パフォーマンスが重要)の3つの観点から分析することによって、この3つの領域がどのようなバランスをとり、どの領域に最も重点が置かれているかを明らかにすることを試みた。歴史的アヴァンギャルドにおいてはこれら3つの領域が等しく重視されており、代表的な詩人ヴェリミール・フレブニコフとアレクセイ・クルチョーヌイフの作品を分析すると、フレブニコフは意味論的な領域、クルチョーヌイフは統語論的な領域と語用論的な領域を重視した創作活動を行っていたことがわかる。ネオ・アヴァンギャルドの芸術家たちはフレブニコフを非常に高く評価しているにもかかわらず、その芸術実践においては(ゲンナジ・アイギのような例外的な詩人を除いて)フレブニコフが行ったような意味論的な言語実験はほとんど行っていない。ネオ・アヴァンギャルドにおいては統語論的・語用論的な領域を重視するクルチョーヌイフの路線が主流となっており、その機能が拡充している。たとえば、ソ連末期にネオ・アヴァンギャルドの詩人たちが政治的なメッセージを送るために使った戦略に注目すると、政治的なメッセージは本来、詩の内容(意味論的な領域)に関わるものだが、検閲等、当局からの抑圧に対抗するため、語用論的な方策によってカモフラージュされていることがわかる(たとえば、詩人は無知で愚かであるかのようにふるまったり、国家への忠誠心を過剰に表現したりする)。このような戦略は、モスクワ・コンセプチュアリズム(特にディミトリー・プリーゴフ)に典型的なものである。

(5) 現代のネオ・アヴァンギャルド詩人が使用しているポストモダニズムの戦略のひとつは、ロシアの哲学者ミハイル・エプシュテインが提唱した「ハイパーオーサーシップ」(ひとりの作者が複数のアイデンティティのもとに文学作品を創作し、読者を混乱させ、故意に誤った理解へと導く)である。エプシュテインが「ハイパーオーサーシップ」という概念を提唱するきっかけとなった、いわゆる「ヤスサダの事例」(実在しない日本の原爆詩人の作品がアメリカで出版された事例)に代表される「偽翻訳」(実際には自分が創作した作品であるにもかかわらず、誰か別の人の作品を翻訳したかに見せかけて発表する)の事例もある。「ハイパーオーサーシップ」はこれまで自明のものとされてきた「作者」の概念を相対化し、テキスト内在解釈を無効にする。

(6) ネオ・アヴァンギャルドの芸術家たちが創作に際して特に注目したロシア・フォルマリズムの理論や概念を点検し、自由で実験的な芸術実践に結びついている「異化」の原理と、事実関係を重視した記録に近い叙述を求める「事実の文学」の原理の、両極にあるように見えるふたつの原理をネオ・アヴァンギャルドの芸術家たちがどのように用いているかを分析・考察した。その結果、ウクライナへの軍事侵攻が続く現在の状況において、ロシア・ネオ・アヴァンギャルドの芸術家たちは戦争というアクチュアルな政治状況を事実即して表現しようとしながらも、音声的・視覚的・パフォーマンス的に「異化」された芸術実験を行っていることが明らかになった。すなわち、「異化」と「事実の文学」という古い二項対立が現代芸術において克服され、個々の芸術実践がどちらかの原理に基づくものとして分類されるのではなく、混合された形式となっているのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Valerij Grecko	4. 巻 -
2. 論文標題 Unreliable Witness: The Yasusada Affair and the Problem of Fictitious Authorship	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Zeyer, K. (ed.) Natur in der Lyrik und Philosophie des Anthropozäns, Aschendorff	6. 最初と最後の頁 323-339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 論文集
2. 論文標題 :	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 , , , , (.)	6. 最初と最後の頁 282-297
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 12
2. 論文標題 :	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Interface. Journal of European Languages and Literatures	6. 最初と最後の頁 85-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6667/interface.12.2020.110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 109/110
2. 論文標題 :	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Russian Literature	6. 最初と最後の頁 165-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ruslit.2019.11.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 論文集
2. 論文標題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ()	6. 最初と最後の頁 301-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Grecko, Valerij	4. 巻 7
2. 論文標題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Rusistica Latviensis	6. 最初と最後の頁 212-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名
2. 発表標題
3. 学会等名 : (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題 Black on Red: Biopolitics of Plagues under the Soviet Rule
3. 学会等名 International conference "Pandemics & Plagues, Languages & Literatures" (Taiwan National University, online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題
3. 学会等名 International Conference: Moscow Conceptualism. Belgrade, Serbia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Valerij Grecko
2. 発表標題 Multilinguality in the Work of Ilya Zdanevich
3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, 東京大学 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Grecko, Valerij
2. 発表標題 Kitsch, Stioob and Trolling: Forms of Political Provocation in the Contemporary Russian Poetry
3. 学会等名 Internationale Karl-Marx-Tagung. Trier University, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Grecko, Valerij
2. 発表標題
3. 学会等名 Tbilisi State University, Georgia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Grecko, Valerij
2. 発表標題 Contemporary Russian Poetry between Transculturality and Autarky: A Linguistic Aspect
3. 学会等名 National Taiwan University, Taipei (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名
2. 発表標題
3. 学会等名 日本ロシア文学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 . (ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 -	5. 総ページ数 328
3. 書名 : (: , pp. 54-72を担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

セルビア	ベオグラード大学			
その他の国・地域	国立台湾大学			
ドイツ	トリーア大学	ポッフム大学	ベルリン自由大学	
ロシア連邦	ペテルブルク大学			
ジョージア	トビリシ国立大学			